

研究レポート

4

共働き世帯・専業主婦世帯からみる 父親の子育てとワークライフバランス



ベネッセ教育総合研究所 高岡 純子

1. 調査対象について

「第3回 乳幼児の父親についての調査」は、2014年に首都圏（一部地方）を対象に行った。本レポートでは、首都圏（東京、埼玉、千葉、神奈川）の父親を対象に、共働き世帯、専業主婦世帯というそれぞれの生活スタイルごとによろしく家事や子育て、家族にかかわっているかを分析している。ここでは、専業主婦世帯、妻が正社員の世帯（以下、共働き世帯・正社員）、妻がパート・アルバイトの世帯（以下、共働き世帯・パート）の3群に分け、それぞれの生活スタイルごとに、子育ての様子や家族とのかかわりなどがどのようになっているかについてみていきたい（図4-1-1）。

妻が専業主婦の世帯は47.8%である。共働き世帯の内訳は、妻が正社員の割合は30.5%、パートタイム・アルバイトは13.6%、その他（契

約社員、派遣社員、自営業等）8.1%である。

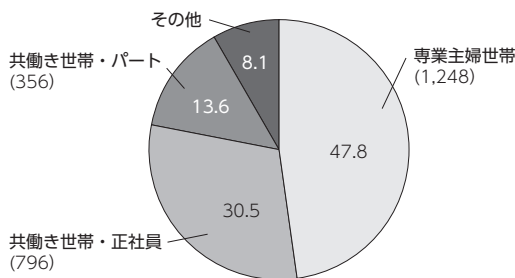
2. 家事・育児のかかわり

(1) 平日は共働き世帯（正社員）の父親の帰宅時間が早く、子どもと過ごす時間は1時間～2時間程度である

平日の父親の帰宅時間を聞いた結果が、図4-2-1である。専業主婦世帯の父親は、帰宅時間のピークが20時台で全体の21.9%を占める。21時台以降に帰宅する割合も39.0%を占めている。共働き世帯（正社員）の父親は帰宅時間がもっとも早く、19時台がピークである。19時台までの帰宅が46.5%を占めている。共働き世帯（パート）の父親は両者の中間に位置している。

平日に子どもと過ごす時間は、すべての父親で1時間～2時間未満がもっとも多い。次いで

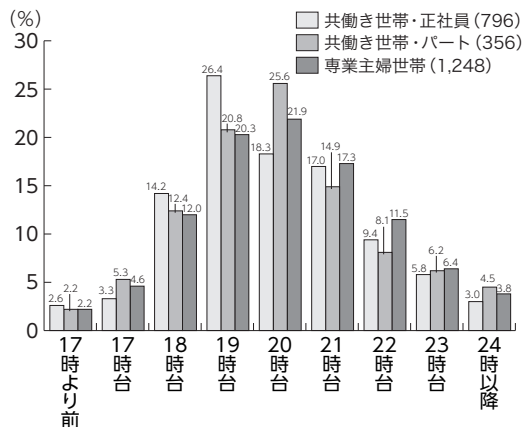
図4-1-1 妻の就業状況



※父親が有職者・首都圏のみ。

※「その他」…契約社員／派遣社員、自営業・家族従業、内職・在宅ワークなど。

図4-2-1 平日の帰宅時間（父親）



※父親が有職者・首都圏のみ。

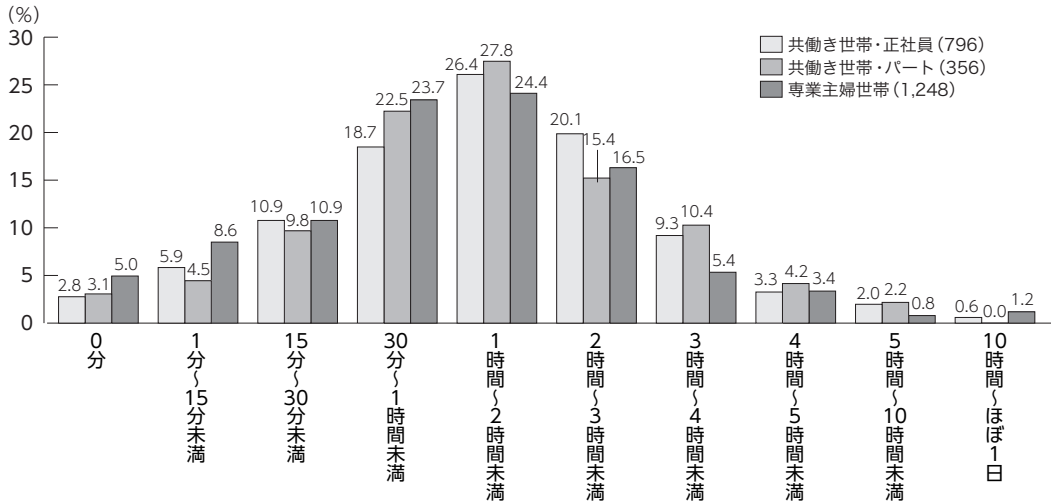
専業主婦世帯と共働き世帯(パート)の父親は「30分～1時間未満」が多く、共働き世帯(正社員)は「2時間～3時間未満」(20.1%)であった(図4-2-2)。平日の帰宅時間と併せて考えると、もっとも帰宅時間の早い共働き世帯(正社員)の父親が、もっとも多く子どもと一緒に過ごしている結果である。『第5回幼児の生活アンケート2015レポート』(ベネッセ教育総合研究所、2015)によると首都圏の幼児の平均就寝時刻は21時台である。専業主婦世帯の父親の39.0%は帰宅時間が21時台以降であることから、帰宅後から子どもの就寝まで非常に短い時間を過ごしている様子がうかがえる。

(2) 家事では、食事のしたくや後片付け、掃除をする、ごみを出す頻度が、共働き世帯(正社員)で高い

父親が家事・育児にかかわる頻度は、母親の仕事の有無が関連すると思われる。父親が家事5項目について行う頻度を4件法で聞いた(図4-2-3、図4-2-4)。

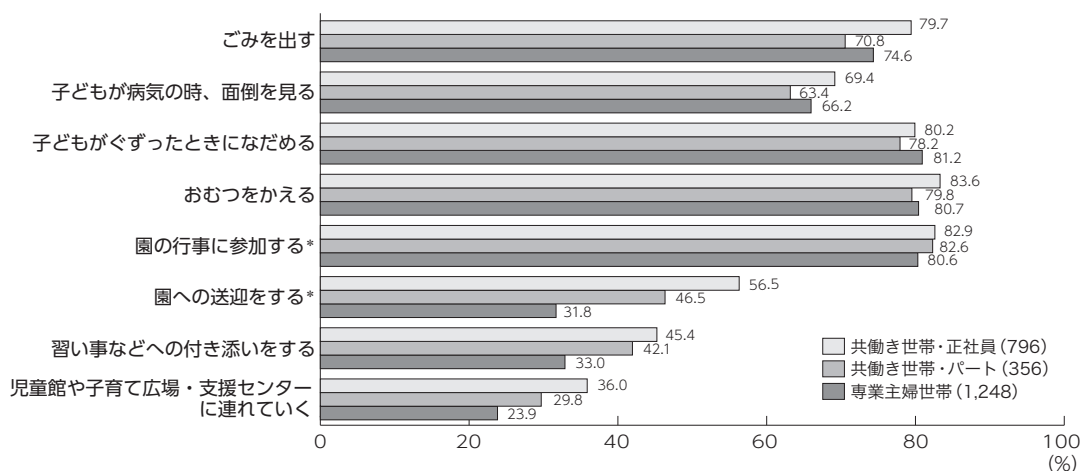
差がみられたのは、食事のしたく・後片付けと掃除、ごみ出しの4項目で、とくに、専業主婦世帯の父親の行う頻度が低く、共働き世帯(正社員)の父親の行う頻度が高い傾向にある。例えば、「食事の後片付けをする」では、「ほとんど毎日する、週3～5回する」でみると、専業主婦世帯の父親の行う頻度が低く、共働き世帯(正社員)の父親の行う頻度が高い傾向にある。

図4-2-2 平日子どもと一緒に過ごす時間(父親)



※父親が有職者・首都圏のみ。

図4-2-3 現在の家事・育児へのかかわり①



※父親が有職者・首都圏のみ。

※ [いつもする] [ときどきする] の合計。

※ (*)は、園に通う人のみが回答。

主婦世帯32.4%、共働き世帯（パート）36.6%、共働き世帯（正社員）42.4%と専業主婦世帯と共働き世帯（正社員）で10ポイントの差が見られた。同じ共働き世帯でも、妻がパート・アルバイトの場合は36.6%とやや低くなっている。パート・アルバイトの妻の帰宅時間は17時より前の帰宅が約6割を占めていることから、共働きであっても家事・育児の多くは妻が担っており、専業主婦世帯の状況に近いことがうかがえる。

(3) 日々の育児では、共働き世帯（正社員）の父親の取り組み頻度が高い

育児を行う頻度はどうだろうか。日々の育児に関する項目について、「ほとんど毎日する、週3～5回する」頻度をみよう（図4-2-4）。

「子どもをお風呂に入れる」頻度は、専業主婦世帯35.4%、共働き世帯（パート）42.4%、共働き世帯（正社員）42.1%だった。一方、「子どもを寝かしつける」頻度は、専業主婦世帯23.9%、共働き世帯（パート）27.2%、共働き世帯（正社員）30.1%、「子どもと一緒に室内で遊ぶ」頻度は、専業主婦世帯34.5%、共働き世帯（パート）37.6%、共働き世帯（正社員）41.5%で共働き世帯（正社員、パート）の父親がやや高い。一方で、「子どもと一緒に外で遊ぶ」

頻度は、専業主婦世帯4.6%、共働き世帯（パート）5.1%、共働き世帯（正社員）6.7%といずれも少なかった。前でもみたように、専業主婦世帯の父親は、平日の帰宅時間で21時台以降が約39.0%を占める。遅く帰宅する父親にとって「子どもをお風呂に入れる」「寝かしつける」ことは、かかわりたくてもできない状況であることがうかがえる。

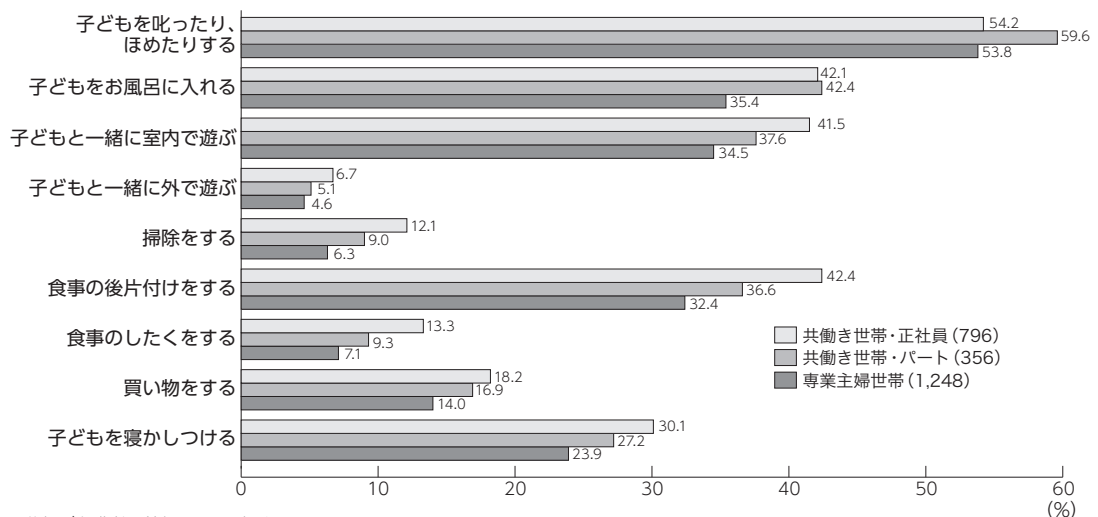
(4) どの父親も「園の行事への参加」頻度は高く、共働き世帯（正社員）の父親は、「園への送迎」頻度が高い

園に通う子どもをもつ場合のみ、園への送迎や行事への参加について聞いている（「いつもする、ときどきするの合計」）。「園への送迎をする」頻度は、専業主婦世帯31.8%、共働き世帯（パート）46.5%、共働き世帯（正社員）56.5%と差がみられた。「園の行事に参加する」頻度は、どの父親も約8割と参加頻度が高い。

(5) 習い事の付き添いや児童館へ連れて行くなどは、共働き世帯（正社員）の夫の頻度が高い

習い事などへの子どもの付き添いや児童館・子育て広場・支援センターに子どもを連れて行く頻度に関しては、専業主婦世帯の父親がもっ

図4-2-4 現在の家事・育児へのかかわり②



※父親が有職者・首都圏・45歳以下のみ。
 ※「ほとんど毎日する」「週に3～5回する」の合計。

とも少なく、共働き世帯が高い。共働き世帯(正社員)の父親では、習い事の付き添い45.4%、児童館や子育て広場・支援センター 36.0%であり、3~4割の父親が行っている(「いつもする、ときどきする」割合の合計)。

一方で、「地域の公園や子育て施設では父親の居場所がない」と回答する父親(よくある、ときどきあるの合計)は約4割弱を占めており(図4-3-1)、地域に子どものための施設が設置されていても、そこに居場所がないと感じている父親が一定数いることがわかる。

3. 子育てで感じていること

(1) 共働き世帯(正社員)の父親は、子どもとの接し方に自信がなく、子育てを精いっぱいやっているのに評価されていないと感じている

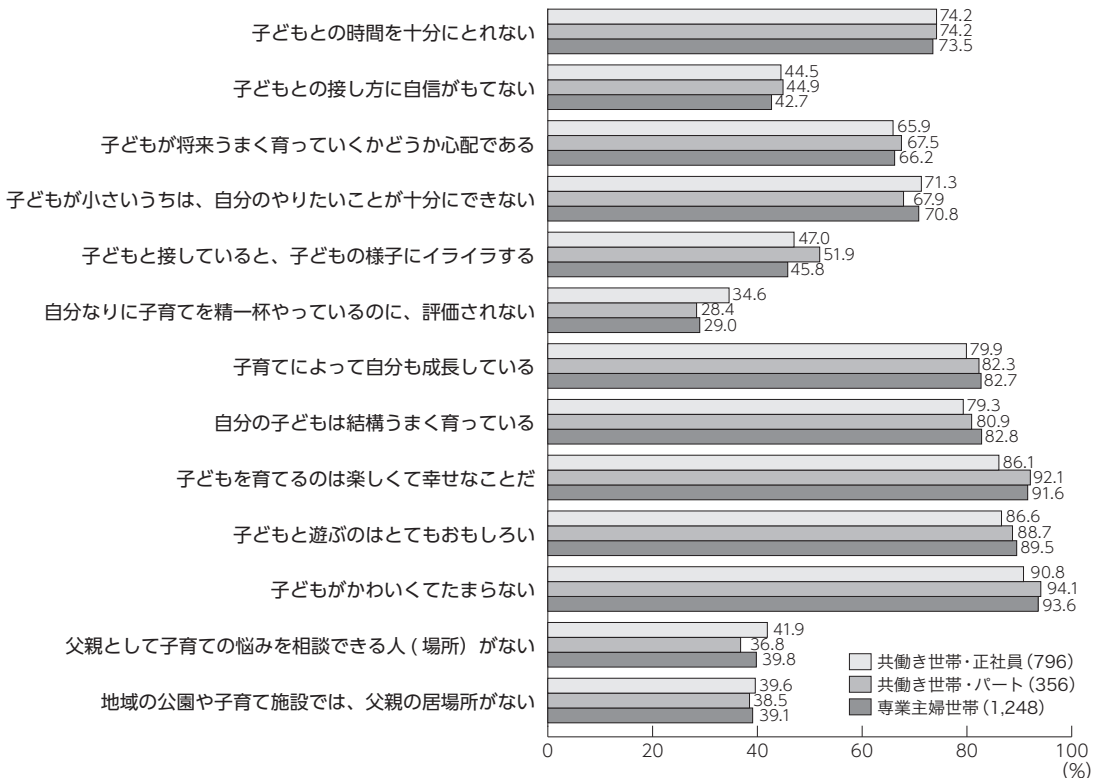
子育て肯定感と否定感に関する項目では(図

4-3-1)、子育て肯定感5項目(「子育てによって自分も成長している」「子どもを育てるのは楽しくて幸せなことだ」など)で8~9割と総じてどの父親も肯定感では高い割合を占めている。

一方、子育て否定感5項目(「子どもとの時間を十分にとれない」「子どもとの接し方に自信がもてない」など)では、多少ばらつきがみられた。「子どもと接していると、子どもの様子にイライラする」では、共働き世帯(パート)の父親がもっとも高くなっている(51.9%)。平日、子どもと関わる頻度や時間が少ない父親たちは、総じて「子どもとの時間を十分にとれない」「子どもが小さいうちは、自分のやりたいことが十分にできない」が約7割を占める。

また子育て肯定感、否定感ではないが、「自分なりに子育てを精一杯やっているのに、評価されない」という項目では、共働き世帯(正社員)の父親の割合がもっとも高かった(34.6%)。

図4-3-1 子育てで感じること



※父親が有職者・首都圏のみ。
 ※「よくある」、「ときどきある」の合計。

毎日早く帰宅し、子どもとのかかわりを多く持つことを妻に認められていないと思う父親が多いようである。

(2) 子育てや自分の生活での不安は、総じて「育児費用の負担が大きいこと」「将来の子どもの教育費用が高いこと」

どの父親も「育児費用の負担が大きいこと」「将来の子どもの教育費用が高いこと」を上位に挙げているが、特に専業主婦世帯と共働き世帯（パート）でその割合が高い（図4-3-2）。また、専業主婦世帯の父親の不安の高い項目では「自分の収入が減少しないかどうか」「子どもが無事に元気に育つかどうか」などが多い。共働き世帯（正社員）が高かったのは、「子どもの進路・成績のこと」「自分の時間がなくなること」であった。

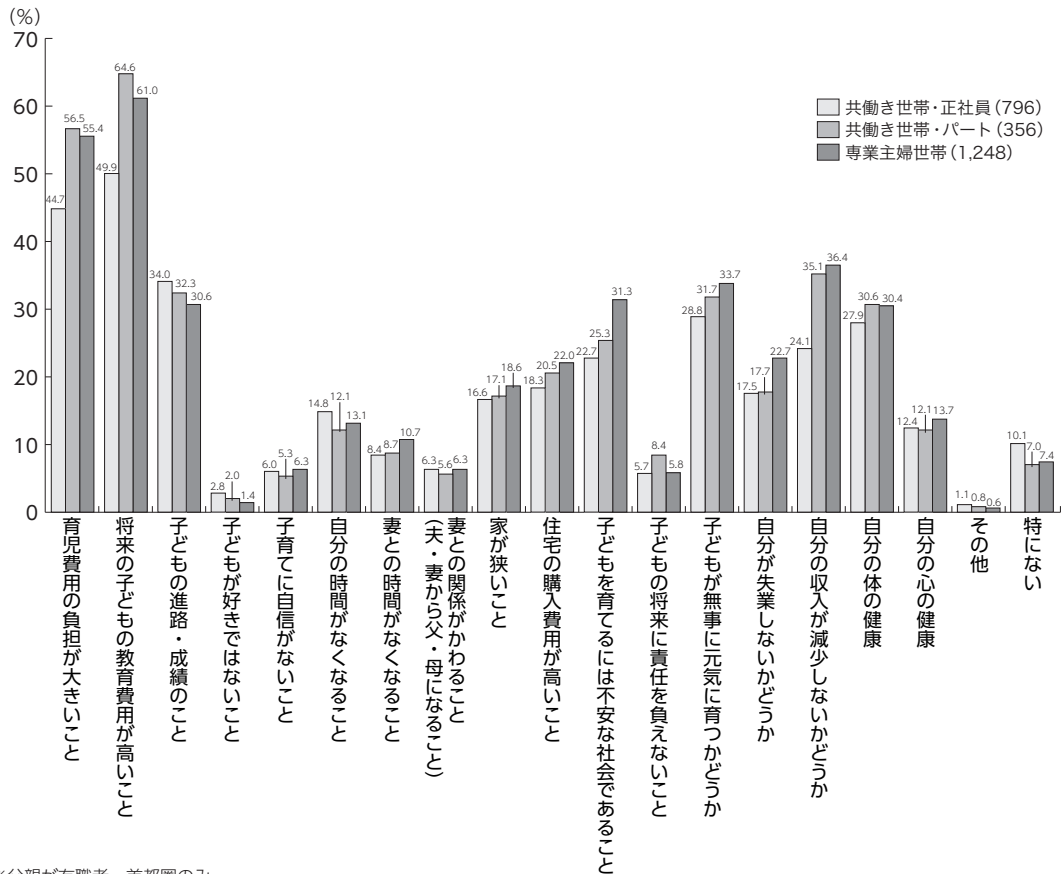
4. 妻とのかかわり

(1) 妻とのかかわりでは、妻と毎日話す割合は、妻の就業状況にかかわらず8割以上。ただし、共働き（パート）世帯の夫は「自分の仕事・生活上の悩みを相談する」割合が低い

このレポートでは回答者を「父親」と呼んでいるが、ここでは、配偶者（妻）との関係を聞いているため、回答者を「夫」、配偶者を「妻」と記述したい。夫と妻のコミュニケーションの実態と意識について、4段階で聞いた（図の数値は「とてもあてはまる～まああてはまる」の割合）（図4-4-1）。

妻の就業状況にかかわらず共通していたのは、妻と毎日話す割合だった。どの世帯も、「子どものことについて妻と毎日話している」「子

図4-3-2 子育てや自分の生活で不安なこと



※父親が有職者・首都圏のみ。
※複数回答。

ども以外のことについて妻と毎日話している」が7割以上だった。

差がみられたのは、妻と相談する割合である。「自分の仕事・生活上の悩みを妻に相談している」割合は、「妻の(仕事・)生活上の悩みの相談にのっている」より少なかったが、専業主婦世帯41.9%、共働き世帯(正社員)44.3%、共働き世帯(パート)36.2%と、共働き世帯(パート)の夫は共働き世帯(正社員)の夫と比べて8.1ポイント低かった。

(2) 共働き世帯の夫は、妻に必要とされているという意識や互いに心の支えになっているという意識の割合が低い

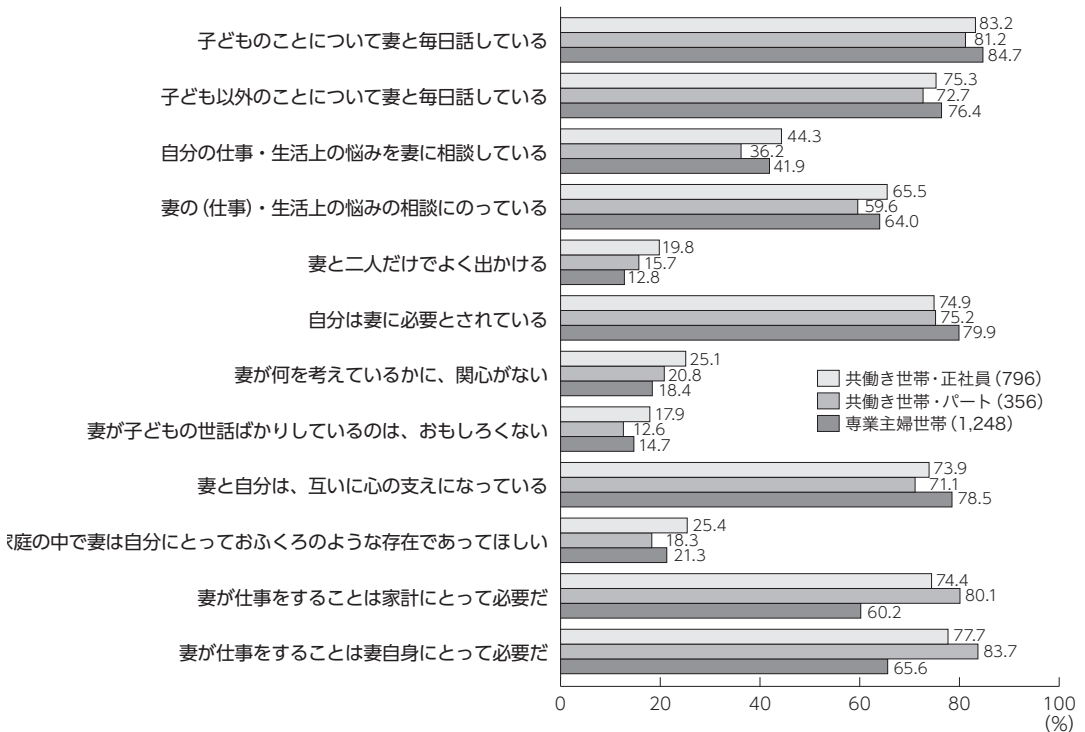
妻との関係に関する意識についての2項目はどうだろうか。「とてもあてはまる～まああてはまる」の割合でみると、「自分は妻に必要とされている」割合は、専業主婦世帯79.9%、共働き世帯(パート)75.2%、共働き世帯(正社員)74.9%と、どの世帯でも7割を超えるが、共働

き世帯(正社員)の夫は専業主婦世帯の夫に比べて5.0ポイント低かった。また、「妻と自分は、互いに心の支えになっている」割合も、専業主婦世帯78.5%、共働き世帯(パート)71.1%、共働き世帯(正社員)73.9%と、どの世帯でも7割を超えるが、共働き世帯(パート)の夫の割合が専業主婦世帯の夫よりも約7.4ポイント低く、必要とされている意識や互いに心の支えになっている意識がやや低い様子がうかがえた。

(3) 妻が仕事をすることについての意識では、専業主婦世帯の夫も6割が肯定的である

妻が仕事をする事についての意識ではどうか。「妻が仕事をする事は家計にとって必要だ」の割合をみると、専業主婦世帯60.2%、共働き世帯(パート)80.1%、共働き世帯(正社員)74.4%と、共働き世帯(パート、正社員)で高いが、専業主婦世帯でも6割を超えている。また「妻が仕事をする事は妻自身にとって必要だ」でも同様に、専業主婦世帯で

図4-4-1 妻との関係



※父親が有職者・首都圏のみ。

※「とてもあてはまる」、「まああてはまる」の合計。

65.6%であった。

仕事と女性についての考えをたずねたところ(表4-4-1)、「仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたら一時やめて、子どもが大きくなったらまた仕事を持つのがいい」と回答した割合は専業主婦世帯で67.1%を占めており、妻が将来は仕事を持つことに肯定的な夫は過半数を超えている。

5. サマリ

共働き世帯、専業主婦世帯といった生活スタイルごとに、子どもへのかかわりや妻との関係の持ち方はさまざまであり、それぞれ可能な方法で仕事と子育てにかかわる様子がうかがえる。それぞれの生活スタイルごとにまとめると以下ようになる。

<妻が専業主婦の世帯>

専業主婦世帯の父親は、帰宅時間が遅く、21時台以降が約4割を占めている。そのため、平日の子どもとのかかわりはもっとも少ない。ただし「週1~2回」の子どもとの外遊びは約7割、園の行事への参加率は約8割と高く(いつもする、ときどきするの合計)、短い時間の中で子どもとかわっている様子がうかがえる。

妻との関係では、8割以上が毎日妻と話をしており、また自分や妻の仕事・生活上の悩みを相談している割合はもっとも高かった。「自分は妻に必要とされている」「妻と自分は、互いに心の支えになっている」割合はどちらも8割

弱で高い。よくコミュニケーションをとり、支えあっている様子がうかがえる。

<共働き世帯(妻が正社員)>

共働き世帯(妻が正社員)の場合、父親の帰宅時間のピークは19時台でもっとも早く、平日に子どもと過ごす時間も比較的長い。そのため、家事・子育ての日常的なかかわりは多岐にわたっている。園への送迎をしている父親は約半数(「いつもする」、「ときどきする」の合計)。子どもの習い事への付き添いや子育て支援センターへ連れて行くなども3~4割の父親が行っている。

一方で、「子どもとの接し方に自信がもてない」割合は、約4割を占めている。また、「自分なりに子育てを精一杯やっているのに、評価されない」と回答する割合が高く、「自分は妻に必要とされている」と感じる割合がやや低い傾向にある。

<共働き世帯(妻がパート・アルバイト)>

妻がパート・アルバイトで共働きの場合は、妻の帰宅時間が早い(約6割が17時以前)ため、妻が正社員の共働き世帯ほど、家事・育児にかかわってはいないが、専業主婦の世帯よりはかかわる頻度は多い。「妻が仕事をすることは妻自身にとって/家計にとって必要だ」では、3群の中でどちらももっとも割合が高い。子育てや自分の生活に不安なことでは「育児費用の負担が大きいこと」「将来の子どもの教育費用が高いこと」でもっとも回答が高くなっている。

表4-4-1 仕事と女性についての考え

(%)

| | 共働き世帯 ・正社員 | 共働き世帯 ・パート | 専業主婦 世帯 |
|--|---------------|---------------|------------|
| 仕事はずっと持たない方がいい | 4.4 | 2.0 | 3.4 |
| 仕事は持つが、結婚したらやめるのがいい | 3.0 | 1.1 | 3.1 |
| 仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたらやめるのがいい | 4.9 | 4.2 | 8.3 |
| 仕事は持つが、結婚して子どもが生まれたら一時やめて、子どもが大きくなったらまた仕事を持つのがいい | 40.1 | 57.0 | 67.1 |
| 結婚して子どもが生まれても、ずっと仕事を持ち続けるのがいい | 44.6 | 34.0 | 15.1 |
| 結婚しないで、ずっと仕事を持ち続けるのがいい | 0.5 | 0.3 | 0.2 |
| その他 | 2.5 | 1.4 | 2.7 |

※父親が有職者・首都圏のみ。